

「水晶山登山研修」プログラム

国立江田島青少年交流の家

1 活動内容

標高90.3mの水晶山の山頂を目指して登山する。青少年交流の家から1時間程度で登り降りできる。途中から頂上まではロープを伝って登っていく。頂上付近では青少年交流の家やその周辺、瀬戸内海の景色を眺めることができる。

2 活動のねらい

グループで登山することで、自然に親しむとともに、仲間意識を高める。
協調性を高める。

3 対象者

小学校4年生以上

ただし、保護者又は責任の持てる引率者と組んで活動する場合はこの限りではない。

4 研修人数

最大100人

5 実施時期、研修時間

(1) 実施時期 通年

(2) 研修時間 約1時間

午前 9時00分から12時00分の間

午後 13時30分から16時00分の間

(注) 自衛隊の訓練があるときは実施できない場合がある。この場合は、事前に交流の家から団体に連絡を入れる。

6 準備物

(1) 個人：登山に適した服装、運動靴、飲み物、タオル

(2) 引率者：携帯電話

(3) 団体：水晶山登山地図（交流の家ホームページからダウンロードできます）

(4) 交流の家：携帯用救急バッグ（1個）、救急法の基礎知識（1冊）、トランシーバー（4台）
通行止め標識（1枚）、マムシの写真（1枚）、グラウンドトイレの鍵

7 指導・安全管理

(1) 指導者の配置・人数・役割分担

研修は、「水晶山登山研修」プログラムをもとに、団体が水晶山登山の指導・安全管理等を行う。

(2) 引率者の配置・人数・役割分担

活動団体で次の役割を持たせる。（小規模の団体は担当を兼ねられる）

①総括責任者（全体の総括、緊急時の連絡担当）・・・1名

②指導担当者（指導、先導、用具の準備、安全管理）・・・1名以上

③監視担当者（頂上手前急斜面での安全確認、安全管理）・・・2名以上

（配置場所については別紙「水晶山登山監視場所」参照）

※ロープを使って登り降りする時、斜面の下に監視担当者を配置し、登り降りの様子を監視する。

④救護担当者（健康観察・応急処置）・・・1名以上

(3) 引率者はトランシーバーを使って連絡を取り合う。

(4) 事故発生時の措置

総括責任者は、事故状況を把握し、交流の家に携帯電話で連絡を行う。



8 展 開

(1) 「物品利用希望書」の提出

必要事項を記入し、総括責任者が当日までに交流の家へ提出する。

(2) 借用物品受け渡し

指導担当者は、交流の家から携帯用救急バッグ（1個）、救急法の基礎知識（1冊）、トランシーバー（4台）、通行止め標識（1枚）、マムシの写真（1枚）を受け取る。

(3) 事前指導

集合場所…つどいの広場

(指導担当者)

- ① つどいの広場に整列させる。
- ② 救護担当者に健康観察をさせる。
- ③ 出発前に必ずトイレを済ませておく。

(4) 指導担当者は目的、注意事項を説明する。

〈注意事項〉

- ① 山道は安全を考え真ん中を一列で歩く。
- ② 山道がない場所には行かない。
- ③ 通行止め標識があるところには行かない。
実際の通行止め標識を見せながら、立ち入り禁止場所の確認をする。
- ④ 自然を破壊しない。
※かぶれる木（ハゼ・ウルシ等）や有毒生物（マムシ・ムカデ・ハチ等）に注意！
マムシの写真を見せながら説明。
- ⑤ 林の中は火気厳禁。
- ⑥ 雨上がりは足元に十分気をつける。
- ⑦ 適宜休憩をとり、水分補給をする。
- ⑧ けが、体調が悪くなったら、引率者に連絡する。
- ⑨ 頂上手前からの登り、そこからの最初の下りは、急な斜面になっているので、ロープが設置してある。そのロープをうまく利用しながら、安全に配慮して、登り降りすること。

(6) 水晶山登山

- ① 1列になってスタートする。
- ② 緊急の場合はグラウンドトイレを使用する。

(7) 事後指導

- ① 汗を拭かせ、水分補給をさせる。
- ② 救護担当者に健康観察をさせる。
- ③ まとめをし、解散する。
- ④ 水晶山登山研修終了を交流の家へ報告するとともに、借用物品の返却をする。

(8) 連絡先

一般電話番号

国立江田島青少年交流の家 TEL 0823-42-0660

0823-42-0661



通行止め標識



ニホンマムシ